



1 ファイン日本酒の新たな地平を切り開く。3つの蔵元のアートピースともいえる。2 お披露目・先行試飲会が行われたのは東京・北青山の「OMAKASE青山ガーデン by GOMO」。3・4 食中酒としての日本酒をアピールすべく、老舗「なだ万」が用意した和食とのペアリングが試された。5 「西今」の木藤正彦蔵元。大沼健蔵元。6 プロジェクトについて語る。ヴァン

パッション並びにサケパッションの川上大介社長。7 興利源は「やまゆ」の本蔵。8 試飲はワイングラスを使って。9 「大歩危」の森多満蔵元。森多満一蔵元。10 「七本蔵」の酒田満蔵元。酒田泰蔵氏。11 20年間の見聞もイベントに参加。実はサケパッション社の蔵元顧問を務める。12 イベントに集まったのは日本酒の流通関係者やソムリエ、インフルエンサーなど。

そこで川上氏は「ファインワインの輸入販売で培ったノウハウを活かし、オリジナルプレミアム酒の開発とブランディングに着手。最初のパートナーとして

2010年から日本酒の蔵元と交流を持ち、12年には「ファインワイン」で築いた海外ネットワークを活用して、日本酒の輸出事業に参入した川上氏。ファイン日本酒を数値化するさらなる取り組みのため、昨年、サケパッション社を設立した。

フランスワインに倣う 付加価値のある酒造り

三蔵の礼を尽くし、協力を求めたのが、石川・白山市の森多酒造「天狗舞」、三蔵・名張市の木屋正酒造「而今」、滋賀・長浜市の酒田酒造「七本蔵」の3蔵だ。それぞれサケパッションとともにファイン日本酒を共同開発し、国内ではヴァンパッションが販売する。

本誌は次号から連続して3つの蔵元を現地取材。ファイン日本酒の魅力を紐解いていく。

栽培され、普段飲み用から付加価値の高い高級酒まで幅広いレンジのワインが造られていました。フランスは先進国ですが、日本は農業大国なんです。一方、日本は水田の面積は約230万ヘクタールありながら、大部分が食用と飼料用で、日本酒用は1%にもなりません。米農家の高齢化や国の減反政策により、この20年間で東京23区、4個分の水田が消失しました。

川上氏によれば、日本におけるワインの総市場は4000億円のうち、小売価格1500円以上の商品が占める割合は数量で11%、金額で25%。一方、日本酒の総市場は5500億円とワインよりも大きいものの、1500円以上の商品が占める割合は、数量で2%、金額で4%に過ぎないという。

「高価格で売れる日本酒はひと

日本酒をファインワインの文法を用いて再解釈。伝統的職人技により造られたアートピースともいえる「ファイン日本酒」を世に広める新たなプロジェクトが始動した。

栽培され、普段飲み用から付加価値の高い高級酒まで幅広いレンジのワインが造られていました。フランスは先進国ですが、日本は農業大国なんです。一方、日本は水田の面積は約230万ヘクタールありながら、大部分が食用と飼料用で、日本酒用は1%にもなりません。米農家の高齢化や国の減反政策により、この20年間で東京23区、4個分の水田が消失しました。

川上氏によれば、日本におけるワインの総市場は4000億円のうち、小売価格1500円以上の商品が占める割合は数量で11%、金額で25%。一方、日本酒の総市場は5500億円とワインよりも大きいものの、1500円以上の商品が占める割合は、数量で2%、金額で4%に過ぎないという。

栽培され、普段飲み用から付加価値の高い高級酒まで幅広いレンジのワインが造られていました。フランスは先進国ですが、日本は農業大国なんです。一方、日本は水田の面積は約230万ヘクタールありながら、大部分が食用と飼料用で、日本酒用は1%にもなりません。米農家の高齢化や国の減反政策により、この20年間で東京23区、4個分の水田が消失しました。



SAKÉ PASSION

芸術の酒、
情熱の蔵

vol.1

～プロジェクト始動～